

第2節 第2次産業と地域

MEMO

みんなで考えてみよう!

炭鉱閉山に影響を与えたエネルギー革命って何だろう?



1 石炭から造船の町へ

(1) 炭鉱閉山から立ち上がる西海市

大島町（西海市）は、かつて、となり町の崎戸町（西海市）とともに「黒いダイヤ」と呼ばれた石炭で栄えた町であった。しかし、昭和30年代から始まった「エネルギー革命」の影響で、1970（昭和45）年に炭鉱が閉山した。そのためここで働いていた多くの人々は新しい職場を求めて家族とともに町を離れ、人口が大幅に減少した。

町は、活気のある町づくりをめざして、企業誘致をはじめ、いろいろな取組をおこなった。その結果、1973（昭和48）年に大島造船所が設立され、1974（昭和49）年には操業が始まった。

これにより、大島町（西海市）は「炭鉱のまち」から「造船のまち」として再出発した。その後、病院や公園を整備したり、野球場をつくったりするなど、市・企業・市民が力を合わせ活力と魅力にあふれたまちづくりに取り組んでいる。



大島造船所

（提供：大島造船所）

(2) 新たな発展のために

大島町（西海市）は、造船のほかにも新しい産業の開発に力を入れている。最近、人気が高まっている完熟トマトの栽培もその一つである。このトマトは、水、肥料をかなり制限した、原産地のアンデス山地に近い条件で栽培されており、糖分が多い。また、果肉がしまっていて水に入れると沈むのが特色である。また、県内第2位の生産量を誇る焼酎などの特産品作りにも取り組んでいる。

水に沈むくらいに身がつまっている!





2 日本有数の石炭火力発電所



松浦火力発電所

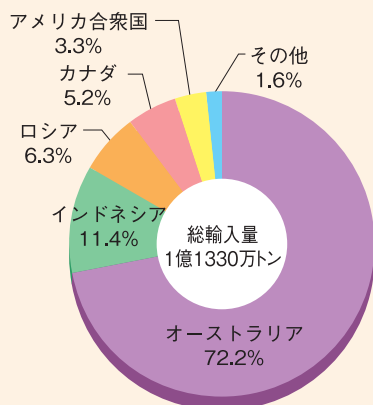
(提供:松浦市)

(1) 松浦火力発電所

松浦市には、石炭だけを燃料とする発電量国内有数の火力発電所があり、現在4基(370万kW)の発電施設が稼動しており、長崎・佐賀両県で使う量を発電することができる。ここで発電

した電気は、九州内はもとより中国・四国地方までの広い地域で使われている。

松浦市は、国や県と協力して新しい企業誘致に努め、広い工業団地を造成して、そこに火力発電所が建設されたのである。



わが国の燃料用石炭の輸入先(令和4年度)
(財務省貿易統計)

発電所の人の話

燃料の石炭は、年間845万トン、1日約2万トンを使います。この石炭は、おもにオーストラリアから輸入していますが、安定確保のため、インドネシアなどからも輸入しています。

外国の石炭を使うのは、安くてしかもカロリーが高いからです。

燃料が石炭なので、環境のことは特に気を使っています。大気汚染防止や排水処理などについては、きめ細かな対策を立て、安全面でも世界最高の水準であると思っています。



MEMO

みんなで考えてみよう!

松浦市が発電所の建設に積極的に取り組んだのはなぜだろう?

みんなで考えてみよう!

長崎県はどのように変わっていくのだろうか?

みんなで考えてみよう!

発電所の建設によって市や市民の生活はどのように変わっただろう?

(2)市の発展

発電所の建設にともない、松浦市は国から多額の交付金を受けた。市は、交付金で学校を改築したり、コミュニティセンターを建設したりして、市民の生活向上に役立てた。また、火力発電所からの固定資産税は、安定した財源となっている。

また、松浦市には、大型船が入港できる港が整えられており、海外から石炭を受け入れている。現在、他の輸入品も受け入れることができる貿易港の整備が進められている。

市では、国際交流にも力を入れ、石炭供給地オーストラリアのマツカイ市と姉妹都市の関係を結び、毎年、中学生や高校生の交流がおこなわれている。また、魚市場に隣接する地に水産加工団地を整備して企業誘地をおこない、水揚げから加工、流通まで一貫しておこなう総合水産基地としても発展しようとしている。



3 大村湾周辺の先端技術産業の集積

みんなで考えてみよう!

ICって何だろう? どんなものに使われているのだろう?

IC工場を調べるため、諫早市の中核工業団地にある工場を訪ねた。クリーンスーツに着がえて、エアーシャワーで全身の洗浄をさせたあと、係の人にクリーンルーム内を案内してもらった。

工場の人のお話

ICは1mmの何千分の1というレベルでの微細な加工をするので、目に見えないようなちりも大敵になります。それでクリーンルームというちりがほとんどない特殊な部屋の中で製造しています。このICはパソコンや携帯電話、ゲーム機などに使われています。九州は日本の中でもIC工場が集中しているので、ICの土台となるシリコンという材料名からシリコンアイランドと呼ばれています。



みんなで考えてみよう!

九州がシリコンアイランドと呼ばれるくらいIC工場が多いのはなぜだろう。



高度技術産学連携地域(4市6町)

中核工業団地は、高速道路の諫早インターチェンジや空港に近く交通が便利な所にある。ICは軽くて小さいため、大消費地から遠くはなれていても、航空機や高速道路を利用したトラックで一度に大量出荷ができ、輸送にかかる費用は少なくすむ。

長崎県では、造船業だけに頼るのではなく、先端技術産業の育成にも力を入れている。このため、長崎空港や長崎自動車道など高速輸送網が整備され、技術力の高い企業や大学、試験研究機関などが集積している大村湾周辺の4市6町の地域を「高度技術産学連携地域」に指定し（平成17～22年度）、大学と企業が連携した技術の開発や事業の創出を促進した。指定終了後も、新たなプロジェクトのもと、引き続き新産業の創出に取り組んでいる。

◎「高度技術産学連携地域」とは

技術革新の進展に対応した高度な産業技術の研究開発などを行う企業やそれらの企業と連携する大学や試験研究機関等が集積し、新たな事業活動の促進が見込まれる地域として都道府県が指定した地域をいう。

この地域では、独立行政法人中小企業基盤整備機構による大学連携型起業家育成施設整備事業や国による新事業支援施設整備費補助などの支援制度を活用することができる。

みんなで考えてみよう!

つくられたICはどこに運ばれるのだろうか?